

藝文いちかわ

市川市芸術文化団体協議会は、市内における各種芸術文化団体相互の協力と理解を深めるとともに、市川市の芸術文化の振興に寄与することを目的とする。

ご挨拶

市川市芸術文化団体協議会名誉会長

市川市長 田中 甲



市川市芸術文化団体協議会の能村会長をはじめ会員の皆様におかれましては、昭和49年の設立以来、長きにわたり本市の芸術文化の普及、発展に多大なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、協議会の皆様が、市民の心にゆとりや豊かさを得られるよう、文化芸術を身近に感じることのできる機会の創出や市川市内における芸術文化団体の相互協力と理解を深める取り組みを精力的に行っていることに対し、深く敬意を表します。

今年度は市川市芸術文化団体協議会創立50周年という節目の年であり、昨年8月に開催されました第31回「芸術文化集會」におきましては、開催規模を拡大し、幅広いジャンルで世代を超えた芸術文化活動の場をご提供いただきました。市川市民の意欲的で質の高い文化活動や協議会の皆様の熱意を肌で感じられたこと、そして、様々な形で活動する市民の皆様が一体となって文化芸術を発展させていく姿に、新たな可能性を感じることででき大変うれしく思います。

市川市も昨年11月3日に市制施行90周年を迎え、「わくわくするまちいちかわ」を

キャッチフレーズに、市内各地で記念事業を行いました。そして90周年記念事業として「永井荷風文学賞」を新たに創設し、小説、演劇、詩など幅広いジャンルを対象に作品を募集いたします。これを機に、全国に向けてさらに「文化都市いちかわ」を発信し、今後百周年、さらにその先の未来に向けて次世代に誇れる文化基盤を築いてまいりますので、引き続き皆様のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、市川市芸術文化団体協議会の益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

市川市芸術文化団体協議会

会長 能村 研三



今年、昭和100年、戦後80年の年になります。戦後間もなくの荒廃時代に枯渇した市民に潤いと希望をもたらす目的で村上正治先生、藤野天光先生が中心になって「市川文化会」が結成されました。それが私たちの市川市芸術文化団体協議会の母体であり、昭和49年に協会が設立されることになりました。

昨年協会は創立50周年を迎え8月に市川

市文化会館を全館貸し切つて記念事業として第31回芸術文化集會「芸術文化の輪はひとつ」市民とともに」を開催、加盟15団体に加え、協力団体、一般公募団体など50団体の参加を得て盛大に開催されました。まだその興奮が冷めやらない時期ですが、間もなく50周年の記念誌が発行されます。

私たちの加盟団体の活動は、それぞれが、時代の流れの中で常に新しさを求めて活動を続けておりますが、芸文協という枠の中で、他の団体との連携した活動が大きな効果を上げています。

自らの団体の中の活動に埋没してしまふと、どうしてもマンネリ化したものになってしまいますが、他の団体とのコラボした活動をすることによって新しい切口を発見し、今までにはなかった新しいものが生み出すことにもなります。

本協会には、音楽、舞踊、美術、文芸、茶道、装道などのさまざまな分野の文化芸術活動を行っている団体がありますが、自らの団体の活動だけにとらわれることなく、他の団体の活動を理解することで大きな輪が生まれます。

市川市では、現在の文化祭、芸術祭のありかたについて、よりよい市民文化の醸成となるように検討されていると聞いております。この問題は私たち協会にとっても大きな問題となりますので、市との緊密な協議を重ねながらより市民文化の発展のために一層努力していきたいと思っておりますので、皆様のご協力、ご支援をお願いしたいと思います。



創立50周年記念 文化集會の特集です

創立50周年記念第31回芸術文化集會

総括プロデューサー 稲葉 健二

創立50周年という節目に、第31回芸術文化集會を開催することができました。今まで芸術協の加盟団体の発表だけでなく、市内で活動している数多くの芸術文化団体や小中学生、公民館サークルやいきいきセンターで活動をしている方たちとコラボレーションするという目的をもって始まりました。

展示関係では担当者が新しいかたちの協力開催を実現し、公演部門では、一般の公募募集での参加者や今まで一緒に発表をしていなかった団体と同じ舞台上で演じることができました。加えて、市響と合唱連盟との合同公演などは芸術コラボのしつかりとした足跡をつけたものと思います。

全体を振り返ると、一部集客などに課題も見えましたが、参加団体がお互いに芸術協を認め合い振興発展につなげていく第一歩になったのではないのでしょうか。

芸術協は、市民が誰でも参加し楽しみながら裾野を拡げるものであります。その拡げる核になり、牽引していくのが芸術協であると自負しています。

創立50周年記念第31回芸術文化集會

展示部門担当 渡辺 成良

展示部門は参加団体のみならず、地域で活動する様々な団体の共演構成となり、大変、有意義な展示演出ができました。

硬直化した、市川芸術文化団体協議会の新しい方向性を発信できたと思ってお

ります。

市川花道協会は、特に会場エンタランスの竹を使った立体演出は、圧巻の空間構成を築かせてくれました。

市川美術会は、日本画・洋画・彫刻・工芸・書、五部門による市展選抜展示でゆつたり上質なレベル感を表していました。

輪の輪工芸美術会は、工芸・立体・平面による選抜展示を行いました。

芳香社は、現代水墨・墨彩画の色紙による展示で、伝統的技法のすばらしさを観せていただきました。

今回の展示では会員団体以外との協働により、障害を持った方々の美術展を展開しているハート&アート展の選抜展示。いかわアートのバンク有志による造形・絵画・イラストの個性ある楽しい展示もありました。

市川市ユネスコ協会からは、ユネスコ絵画展出品作品選抜展示を観ることができました。

創立50周年記念第31回芸術文化集會

公演部門担当 篠田 要衛

芸術協創立50周年記念事業の公演部門は、8月10日(土)・11日(日)の二日間に渡って、市川市文化会館大ホール、小ホールにて開催されました。今回は市川市芸術文化団体協議会を構成する各団体と一般公募による市内で活動されている各種団体とのコラボレーションを実現し、26の団体、サークルが参加しました。

大ホールでは発表のジャンル別にグループを作り、いろいろな団体が各自の特色を出すべく、工夫して発表しました。ただ、設営時間などの関係でグループ間の進行時間がつながらず、来場頂いたお客様にはご迷惑をおかけした部分があり、ご迷惑をおかけしました。加えて、午前中の発表はお客様の入場が疎らであり、この点を考慮して開催時間や発表時間の集中なども考えていこうと思います。小ホールは各団体の持

ち時間を比較的短くして、集中的な進行であった為、スムーズに消化し、お客様もそこそこいろいろな団体の発表を楽しんで頂けたと思います。

創立50周年記念第31回芸術文化集會

ジュニア俳句大会担当 町山 公孝

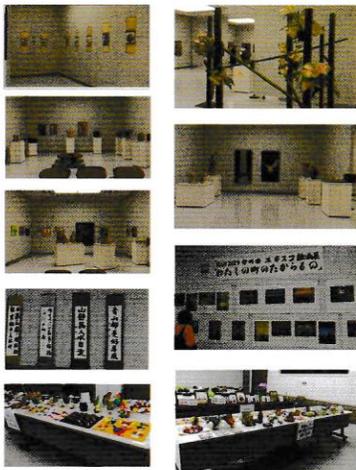
50周年事業の広域展開の一つとして、会場を全日警ホールに設けて「第2回市川市ジュニア俳句大会」を行った。「俳句のまち市川」の、若い世代への俳句振興が目的である。ちなみに第1回は1964年に行われている。

文化芸術課と市川市俳句協会とが協力して作品の募集要項を作成、教育委員会の協力を得て、市川市内のすべての小学校、中学校に配布し、子供たちの作品を募った。

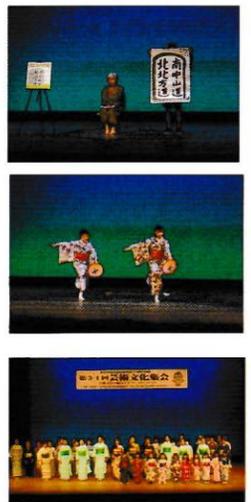
多くの作品が寄せられ、これを市川市俳句協会にもうけた「選考委員会」にて厳重審査・選句を行い、市長賞、市議会議長賞、教育長賞を各1作、優秀賞5作、入選作42作、合計50作を選んだ。これらの入選者は、自らの作品を色紙あるいは短冊に揮毫し、全日警ホール第2展示場に持参して、2024年8月5日から9日まで作品を展示した。

最終日には、市長、市議会議長、教育長、芸術協会長、同副会長の出席のもと、入選者全員50位までの表彰式を行った。

文化集會展示部門



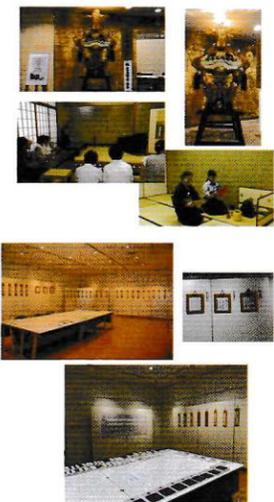
文化集會小ホール公演



文化集會大ホール公演



文化集會神輿展示・茶道・ジュニア俳句大会



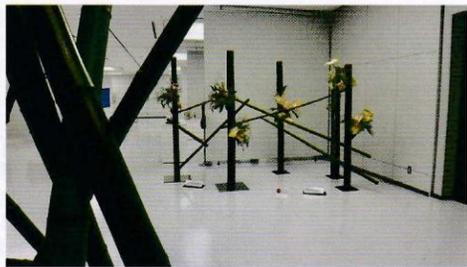
市川市花道協会

8月5日から11日まで一週間、地下展示室エントランスに輪の輪美術会、市川美術会とのコラボで空間を爽やかに竹のオブジェを制作しました。

4日の夕方から13人で孟宗竹の設置をしました。2メートル以上の竹5本を鉄の土台に割り竹を組み合わせ、支柱を作り竹に差し込んで完成させ設置しました。大変な作業にお手伝いして頂いた方々に感謝します。

5日の午前中にたくさんのお花を届け込みました。会期中は猛暑厳しい折、毎朝花の手入れをしましたので、最後までいきいきと保つ事が出来ました。皆さまの結束力だと思います。

また、8日の午前中には千葉歩実先生ご指導の下、乾燥させた蓮の葉にアクリル絵の具を使ったボタニープインテンディングのワークショップを開催しました。ご参加下さったお子様15名と保護者様の楽しい夏休みの思い出になりました嬉しです。



市川市交響楽団協会

市響はこの文化集会公演部門に市川交響楽団、市川交響楽団、市川混声合唱団、行徳混声合唱団の4つの演奏団体が参加しました。

◇8月10日「吹奏楽を楽しよう！」のコーナーに市川交響楽団が参加。年2回コンサートを開催している。市吹はこの公演に吹奏楽の華ともいえるオリンピックファンファーレとテーマの他にイギリス民謡組曲を演奏しました。ただ、午前中であつた為、お客様が非常に少なかつたことが残念でした。

◇8月11日「オペラを楽しよう！」のコーナーに市川交響楽団が参加。ビゼーの「カルメン」より、序曲を始め、市川市文化会館新人演奏会出身者によるアリアを抜粋でお贈りしました。皆様良くご存知のオペラだけに来場のお客様は生のオーケストラとソロの歌声に大いに満足されました。

◇8月11日「ふるさとの四季」合同公演
市川交響楽団と市川市合唱連盟加盟団体有志の皆様と混声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」を指揮・伊東新之助で演奏しました。合唱連盟有志に市川混声合唱団と行徳混声合唱団から十数名が参加し、幼い頃より歌い継がれてきた唱歌の数々をオーケストラと合唱のハーモニーで盛り上げました。



市川交響楽団のステージ



市川交響楽団「カルメン」



「ふるさとの四季」合同公演

市川民話の会

市川民話の会は、市川市芸術文化団体協議会の発足当時から参加してきた。今回は、この五十年、市内各地で地域の方々から採話し、語り継いできた市川のむかし話の中からその一端を紹介した。

市内の石碑や石に因む話から、「なんじゅう山道(中山)」「ねね塚(相之川)」「夜泣き石(国府台)」「かごをかついで両国橋(北方)」「袖かけの松(宮久保)」「市川の石アラカルト(市内各地)」を披露した。

これまで採話した話は五百以上ある。今後も、今まで採話したむかし話を市川の文化として伝えていきたい。



「中山に伝わる七経塚の話」



市内各地に伝わる「じゅえむ話」



市川市合唱連盟

合唱連盟は、市川交響楽団の心強い協力の下に合同公演として「ふるさとの四季」をオーケストラと共に演奏致しました。

猛暑中、また熟年の方も多い参加者の健康状態を心配しながらでしたが、男声二十名弱、女声三十六名の有志の合唱団は、四回の練習と前日のオケ合わせで、リズム、ハーモニーがそろい、明るく響きのあるコーラスに仕上がっていました。

本番では、幼いころの聞き慣れた歌に会場のお客様にも喜んで頂き、一緒に口ずさむ方も多く見受けられ、大変嬉しく思いました。

また、参加した団員からは、「舞台上でオーケストラとの共演を気持ちよく歌えた」などの声も多く聞きました。

今回、合唱の練習指導者として参加しましたが、多くの団体の方たちと接し、私自身も共演を楽しむことができました。本番で楽しく生き生きとして歌う姿を見て、このような機会を与え、支えて頂いた市川交響楽団、合唱連盟の皆様、そして芸文協の皆様にご心より御礼申し上げます。



市川市洋舞踊協会

市川市洋舞踊協会は創立50周年記念事業第31回文化集會において2団体が参加致しました。

発表作品

「すみれバレエクラシック」
・アルレキナーダのヴァ・タリスマンよりニリチのヴァ・花のワルツ

「三沢モダンバレエジャズダンススタジオ」
・Lucky Happy Everyday・チューリップポルカ・空想散歩道

それぞれの個性を生かし発表させて頂き、来場して下さった観客の方々にも楽しんで頂きました。また今回は50周年記念事業ということで、協会以外の方々も参加され様々なジャンルの舞踊を観ることが出来、とても良い機会となりました。

芸文協そして洋舞踊協会が今後更に発展して行く様に精進して参りたいと思います。



市川オペラ振興会

この度は、大ホールの舞台公演に参加いたしました。皆さまがよくご存じでいらつしやいます日本の名曲『夏の思い出』『芭蕉布』、美しいメロディーのヴェネツィア民謡『海に來たれ』、イタリア歌曲『かぎりなく優雅な絵姿』の他、名アリア、オペラ『ボギーとベス』より『サマータイム』そして今年ブッチーニ没後100年ということで名作オペラ『トウランドット』より『氷のような姫君も、オペラ『ラ・ボエーム』より『わたしが町を歩くと』をお届けさせて頂いていただきました。

また、国立音楽大学作曲家ご出身の中原健二先生の『思い出は風につて』という私にとりまして大変思い出深い素敵な曲を歌わせていただきました。お客さまからの温かい拍手にも支えられ無事公演終了となりました。『芸術文化の輪はひとつ』市民とともに『』というタイトルの通り、これからも市川市民の皆さまに、私達の歌で想いを伝えられたら…と思います。



市川市俳句協会

第二回市川市ジュニア俳句大会
主催 市川市・市川市芸術文化団体協議会事務局 市川市（文化芸術課、教育委員会）市川市俳句協会

以下の作品が主な入選作品です。
市長賞 南浜小学校6年 岩間陽菜子

新学期自分の殻を突き破れ

市議会議長賞 平田小学校6年 佐藤萌妃菜

春にはね違う出会いが待ってるよ

教育長賞 南浜小学校6年 森崎心菜

春は花いろんな色のハーモニー

優秀賞 曾谷小学校6年 徳光結空

運動会蒼空の下風になる

平田小学校6年 山口寛人

菜の花をいすみ鉄道駆け抜ける

八幡小学校6年 増田想大

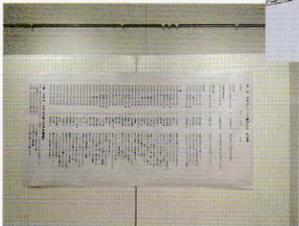
思い出が卒業式でよみがえる

南浜小学校6年 二宮ちさ

なんだろう涙出てくる卒業だ

南浜小学校6年 加藤康之介

ひまわりはくもりのときの太陽だ



市川市芸能協会

私たち八幡下町ゆうづる太鼓は子ども会が基盤の和太鼓チームです。幼児から大人まで幅広い年齢の中で楽しく活動しております。伝統文化である和太鼓を通じた世代間交流や地域コミュニケーションを目指して日々練習を続けています。

今回の芸文協創立50周年記念事業第31回芸術文化集會の公演部門には、市川市芸能協会の中で、市川カラオケ連合会、八幡囃子保存会、千翠会、光江会、はなみづき会とともに参加し、私たちは、和太鼓演奏を披露させて頂きました。普段、野外での演奏が多い私たちにとって、市川市文化会館という音響、照明の整った素晴らしいステージでの演奏は出演者一同、本当に貴重な体験となり、次のステップアップにつながる原動力となりました。

また、この記念事業を通じて、多くの文化団体の皆様の活動を知る機会を頂き、感動するとともに、私たちもより一層頑張っていこうと思う気持ちが高まりました。参加させて頂きありがとうございました。



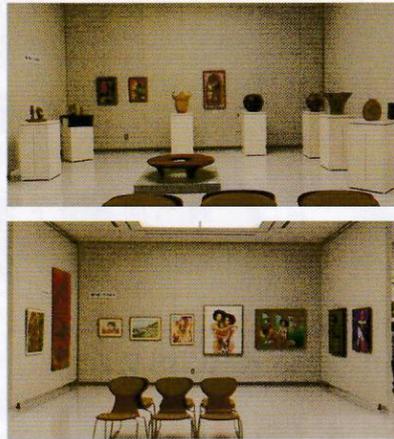
輪の輪工芸美術会

展示室の展示は、7団体で構成しました。

輪の輪工芸美術会では平面は3名の油絵作家で6点、其々作風が違う。木彫りの刻字で立体と繋ぐ。立体は縄文土器と大きい花入れで立体感を出し、床にはどっしりとした木製座卓を中央にセットして、また、愛嬌に空き缶アトで展示のブースを和ませました。

展示室エントランスは、輪の輪工芸美術会と市川市花道協会のコラボレーション。真夏の殺人的な連日の酷暑の中、数人で材料を調達、数日前から施工の準備をし前日夜の制作で、立派にオブジェが出来ました。

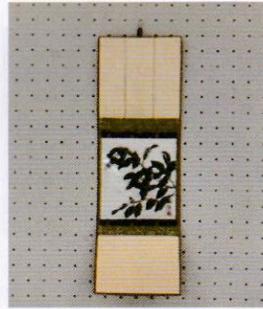
花道協会の皆様方は、初日から最終日まで生花を色褪せずに毎日の管理はご苦労そのものでした。場内の展示はもとより入り口のレイアウトの大切さを痛感しました。



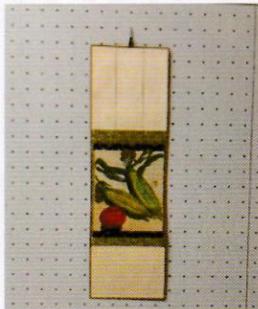
芳香社

市川市芸術文化団体協議会創立50周年記念事業に、私たち芳香社は色紙を多当紙に掛けての出展をさせていただきました。

展示場所は市川市文化会館（手児奈ホール）の大展示室入り口から一番突き当りでご来場者の方々にご覧いただくにはとても良い場所でした。空間にピッタリ並び、風景・草花・鳥・野菜などを、墨のみまたは墨に顔彩で色入れをした力作でした。評判がよく、じっくり見ていただけた様子もありとても良かったと感じていただけたいと思います。これからも芳香社は益々勉強し、研鑽してまいります。



池田蘭径『橋』



古川 恵美子
『匂はおいしいね』



山本 岬雲『ドクダミ』

装道礼法きもの学院 千葉県認可連盟市川支部

装道礼法きもの学院では、市川市文化会館小ホールに於いてきものショーを披露しました。

一景 子供たちによる礼法基本げいこつくし幼稚園の園児十名による、立礼・座礼・歩き方など基本的な立ち居振舞いが、音楽に合わせてとても上手に可愛らしくできました。装道では、次世代を担う子供達を対象に伝統文化親子教室事業に力を注いでおります。

二景 装道舞装道オリジナルの美しい旋律にのせて、きものを装う楽しさ優雅さを表現する自装の舞です。

三景 花結びファンタジー一本の帯から四季の花々を表現しました。

「桜」日本人の心の花 国花 「菜の花」可憐な花が寄り添った千葉県の花 「薔薇」友情を育む市川市の花 「チューリップ」幼き頃の思い出の花 「ハイビスカス」南国の夢 情熱の花 「朝顔」あさがおにつるべとられてもらい水

四景 一人で装うきもの全日本きもの装いコンテストの入賞者三名による振袖の自装をご覧いただきました。美容姿という道具を使いふくら雀の帯結びを自分で結びます。三人の息の合った着装の手さばきに大きな感動を与えました。



宗 左近・蕊の会

宗 左近・蕊の会は壮絶な戦争経験をしてきた詩人宗左近氏の人生を「あの世この世の間（あわい）に生きて」というDVDの上映で紹介し、その後、和洋女子大学演劇部の皆さんによる「宗左近朗読劇」を上演。宗左近著作「炎える母」を引用したオリジナル脚本を片手に会場全体を使って氏の絶望を表現しました。

次に「あなたにあいたくて生まれた詩」コンクール、宗左近最優秀賞受賞者である国府台女子学院小学部六年生の芳賀董さんによる受賞作の朗読で、透明な感性を披露し無事終演となりました。記念公演として次世代と共に充実した内容を届けられたことを喜び、ご協力頂いた関係者皆さまに感謝申し上げます。



宗 左近



